

子宮頸がんの予防とHPVワクチンについて

クチコミの チカラを使って

正しい情報を
みんなに



ON CANCER

がん疫学研究の情報発信サイト

<https://gunmadaigaku-kk.nf.gunma-u.ac.jp>

2021-2024年度文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B)

「保健師を中心に地域に広げる子宮頸がん予防対策の普及プログラム」代表：片山佳代子（群馬大学）

2023-2025年度がん対策推進総合研究事業

「生まれ年度ごとのHPVワクチン接種状況と子宮頸がん罹患リスクの評価とキャッチアップ接種者に対する子宮頸がん検診の受診勧奨手法の開発」代表：上田豊（大阪大学）

クチコミ の チカラ

イノベーター理論 を活用して

イノベーター理論って？

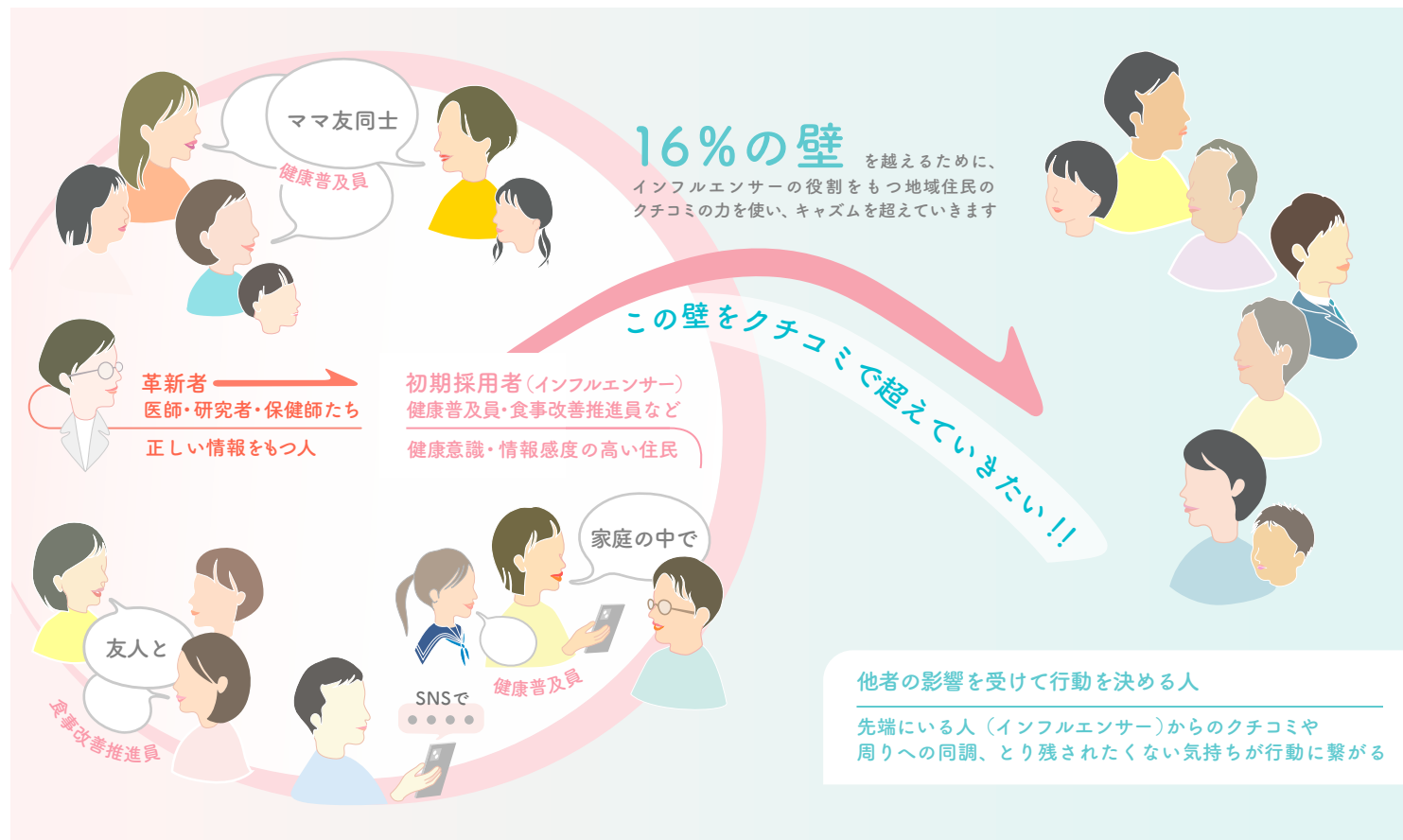
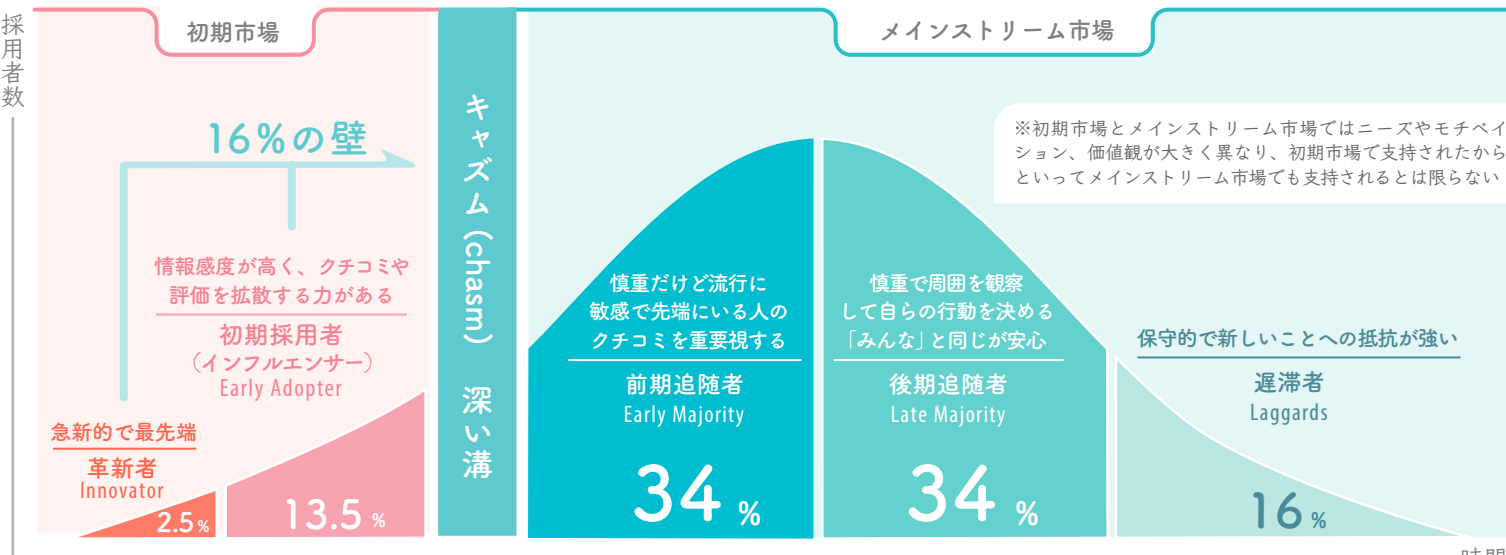
イノベーター理論とは、新しいもの・サービス、ライフスタイルなどの、市場における普及率をあらわすマーケティング理論のことです。採用するタイミングが早い順に市場を5グループに分類し、前2グループを初期市場、後3グループをメインストリーム市場といいます。

初期市場とメインストリーム市場の間にはキャズム（chasm）と呼ばれる深い溝（普及の分水嶺）があり、ここが全体へ普及させる障害になります。この溝を超えるポイントが初期採用者（インフルエンサー）で、この層が持つ拡散力が発揮されることで全体への波及効果が期待できます。

市場を“地域”に置き換えて

市場を地域の住民に置き換えると、初期市場の「革新者」は医療者や公的機関にいる正しい情報を発信できる人たちです。情報を浸透させるポイントになる「インフルエンサー」とは、健康意識の高い健康普及員や食かいさん、既に子宮頸がんやワクチンのことを知っている情報感度の高い住民のことです。メインストリーム市場に当たる多くの住民に情報を浸透させ、行動に繋げていくには、いかにインフルエンサーのみなさんに情報を伝え、そのクチコミ力を発揮してもらうかがポイントです。

採用者数



子宮頸がんを予防するには？

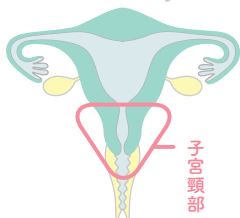
みんなに関係のある、子宮頸がん

子宮頸部という子宮の入口に近い部分にできるがんです。日本では毎年1,1万人の女性が子宮頸がんと診断され、さらに毎年2,900人の女性が亡くなっています。20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人も、年間約1,000人います。

子宮頸がんは予防のできるがんです

子宮頸がんは主に HPV(ヒトパピローマウイルス)への感染が原因で発症します。HPV ワクチンの接種で感染を防ぎ、定期的な検診を受けることで子宮頸がんを予防することができます。このウイルスは一度でも性的接触の経験があれば、男女共に誰でも感染する可能性があります。女性だけでなく、男性にも HPV によるがん発症のリスクがあります。

20代～30代にも多く、
誰にでも罹る
可能性のあるがん



検診は専用の器具で優しく頸部の細胞を採取します。数分で終わる簡単なものです。

ワクチン接種 + 20歳になったら2年に1度の定期検診

検診は健康で自覚症状の無い時に受けるものです。特にセクシャルデビュー後の女性は検診も受けていただきたいのです。子宮頸がんは初期段階で自覚症状はありません。何か気になる症状があれば2年以内でも必ず受診しましょう。

どんなワクチンがありますか？

現在日本で公費接種可能なワクチンは3種類あります。2価・4価・9価ワクチンで、それぞれ予防可能なウイルスの型に違いがあり予防効果にも差があります。

HPVウイルスは200種類を超える型があると言われており、子宮頸がんの発症と関係が深いハイリスク型を、これら3種類のワクチンで感染予防が可能です。

※接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります

9価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を88.3% 予防

▶ 9価ワクチン / シルガード9

HPV16型・18型・6型・11型・31型・33型・45型・52型・58型の予防

2価・4価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を65.4% 予防

▶ 2価ワクチン / サーバリックス

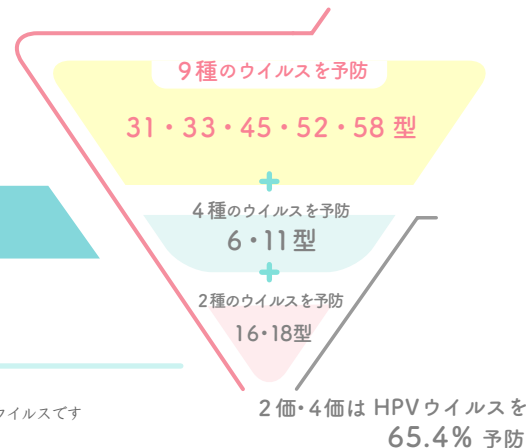
HPV16型・18型の予防

▶ 4価ワクチン / ガーダシル

HPV16型・18型・6型・11型の予防

※6・11型は、主に尖圭コンジローマという性感染症の原因となるウイルスです

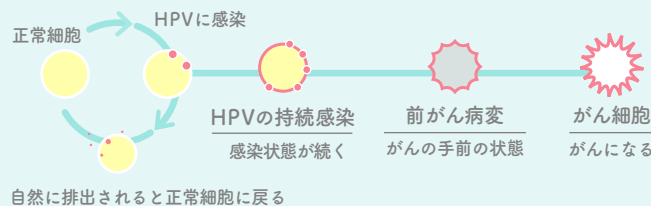
9価は HPVウイルスを 88.3% 予防



ワクチンを接種していても検診は必要ですか？

HPVワクチンの種類で差がありますが、接種によって60～90%の感染を防ぐことができます。ただし100%ではないため、接種の有無に関係なく定期検診が必要です。

“感染＝がん”ではなく、
検診で早期に発見すれば
治療が可能です



HPVはありふれたウイルスです。多くの人が一生に一度は感染すると言われています。感染しても多くは自然に排出されますが、一部の人で持続感染を続ける場合があり、更にその一部はがんへと進行します。

子宮頸がん検診はどこで受けられますか？

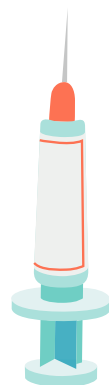
地域の医療機関（婦人科・産婦人科）で受けられます。

検診では、既に「がんにかかっているか」だけでなく、「がんになりそう」な状態かどうか確認できます。

早期に発見すれば治療が可能です。

※男性にも HPV ワクチンの無料接種や接種助成をおこなっている自治体が増えています。男性接種について気になる方はお住まいの自治体にお問い合わせください。

小学校6年生 から 高校1年生相当の女子は、 公費でHPVワクチンが 接種できます



HPVワクチンは、性交渉が未経験の 場合にだけ効果があるのですか？

HPVワクチンは性交渉開始前に接種することが最も効果的であるとされています。しかし、すでに性交渉を持っている方でもワクチンで予防できる HPV の型すべてに感染している割合は少なく、接種する意義はあります。

万一、副反応や健康被害が
起こったら、まずは接種を受けた医療機関
やかかりつけ医に相談をしてください
**相談窓口など、詳しくは最後の
ページで案内しています**

HPVワクチン副反応報告数

ワクチン種類	接種可能なべ人数	(うち重篤) 医療機関からの報告
2価ワクチン	7,025,911	0.0079%
4価ワクチン	2,264,887	0.0058%
9価ワクチン	5,429	0.000%

※令和4年10月1日から令和4年12月31日報告分まで医療機関への
納入数量を接種可能なべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したもの

副反応が怖いです

HPV ワクチンに限らず、全ての予防接種で接種部位の腫れや痛みなど、また稀にアレルギー症状が起きることがあります。ほとんどの場合は自然に解消されますが、体調に異変を感じた場合は医師に伝え対処を受けましょう。

HPV ワクチンの安全性は？

現在までに世界中で幅広く接種されています。

日本を含めどの国でも安全性に疑問が出る報告はほぼ見当たらず、安全性は海外・国内で確認されています。また接種開始時から現在まで安全性に変化はありません。

HPVワクチン接種後の 重篤な副反応報告に関する4か国比較				
全ての報告	26.1	53.1	103.6	22.3
重篤な報告	6.1	3.3	31.8	1.3
個別の副反応(例)	約 890 万	(重篤のみ)	(重篤+軽傷)	(重篤のみ)
接種部位以外の広範な疼痛	1.1	0.1	0.6	0.1
合計ワクチン接種数	(重篤のみ)	約 2300 万	約 600 万	約 770 万

「10万接種当たりの副反応報告頻度」 ※国により報告制度や重篤とされるものの扱いが異なるため一概には比較できない

3種類いずれも1年以内に接種を終えることが望ましい

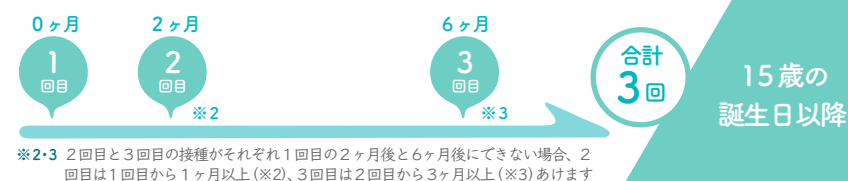
9価ワクチン

シルガード9 の接種スケジュール

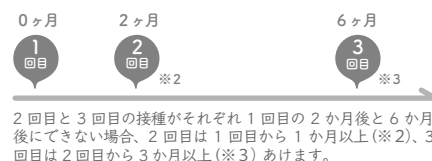
1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合



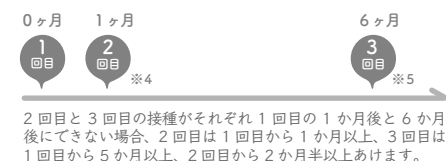
1回目の接種を15歳になってから受ける場合



4価ワクチン / ガーダシルの場合



2価ワクチン / サーバリックスの場合



集団免疫をつけ、男女
ともにがんを予防するため男性
のワクチン接種は有効です

HPV ワクチンは男性も 接種した方が良いですか？

HPVは男性から女性にも、女性から男性にも移行します。男性においては中咽頭がんや肛門がんなどが HPV 関連がんであり、これらは最近増加傾向です。男性も接種することで集団免疫が形成されやすくなり、女性・男性共に HPV 感染予防効果が高まります。

※ただし、日本では現時点で男性においては HPV ワクチンは
自費での接種のみで、公費での定期接種は導入されていません。
(いくつかの自治体を除きます)

HPVは子宮頸がんだけでなく、男性を
含めその他がんの原因にもなります

女性のみ
外陰がん・膣がん
子宮頸がん

男性のみ
陰茎がん

男女共に
肛門がん・中咽頭がん

※中咽頭がんは男性に多い

接種ストレス関連反応（ISRR）とは、どんな症状ですか？

HPVワクチンに限らず、全ての予防接種には「接種ストレス関連反応（ISRR）」という、接種にまつわるストレスから生じる反応があることが知られています。日常生活の中での不安や不調などが、接種による緊張や不安でより高まり、身体的な不調があるように感じてしまうことです。

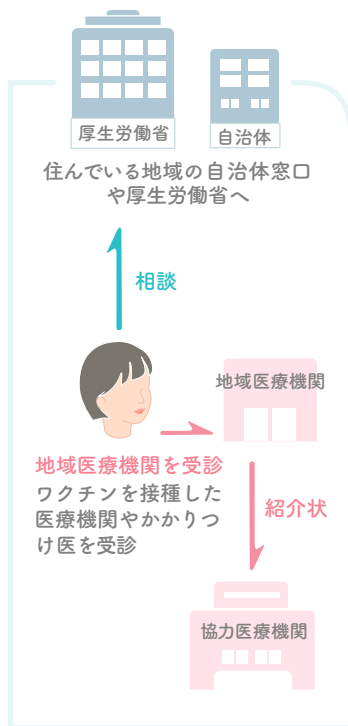
特に HPV ワクチンは思春期の多感な時期に接種することもあり、この ISRR を感じやすい可能性があります。

接種の有無に関わらず起き得るのですが、万が一ワクチン接種がきっかけになった場合には診療体制が整備されており、適切な対処が受けられます。

もしも副反応や接種ストレス 関連反応（ISRR）が起きたら？

接種後に異変を感じた場合は、まずは接種を受けた医療機関やかかりつけ医に相談して下さい。また地域の医療機関をバックアップするため、47都道府県に80を超える協力医療機関があり、必要に応じて受診が出来ます。

協力医療機関への受診については紹介状が必要なため、まずは接種を受けた医療機関や、かかりつけ医にご相談ください。



ワクチン相談窓口

予防接種による健康被害が生じた場合、その健康被害がワクチン接種によるものであると厚生労働省が認定した場合には、救済制度があります。救済制度の申請や相談は、居住地域の窓口へご相談ください。厚生労働省でも下記窓口でHPVワクチンについての相談を受け付けています。

厚生労働省

感染症・予防接種に関する相談窓口

電話番号：0120-331-453

※HPVワクチンを含む、予防接種全般についての相談窓口です。

自治体の相談窓口

お住まいの自治体HPにてご確認ください。

※自治体名と「HPVワクチン 相談」等で検索してください。

みんなで学ぶ HPV ワクチンアカデミー



HPVワクチンの安全性と子宮頸がん予防について、科学的なデータと専門家の意見に基づいた情報を動画で学べます。

総括責任者：片山佳代子
医療監修：上田豊

<https://www.youtube.com/watch?v=KHx6BzKvHWQ>

国立がん研究センターファクトシート

日本の子宮頸がんおよび HPV 関連がんの対策とその管理体制について、科学的根拠と諸外国の事例を国立がん研究センターがまとめています。



<https://www.ncc.go.jp/html/icc/hpvcancer/index.html>

接種ストレス関連反応（ISRR）とは、どんな症状ですか？

HPVワクチンに限らず、全ての予防接種には「接種ストレス関連反応（ISRR）」という、接種にまつわるストレスから生じる反応があることが知られています。日常生活の中での不安や不調などが、接種による緊張や不安でより高まり、身体的な不調があるように感じてしまうことです。

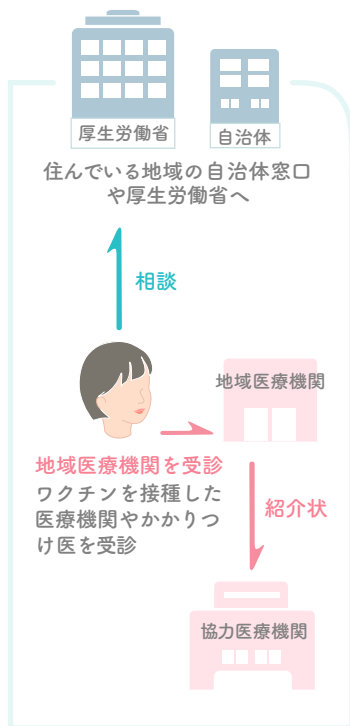
特に HPV ワクチンは思春期の多感な時期に接種することもあり、この ISRR を感じやすい可能性があります。

接種の有無に関わらず起き得ることですが、万が一ワクチン接種がきっかけになった場合には診療体制が整備されており、適切な対処が受けられます。

もしも副反応や接種ストレス 関連反応（ISRR）が起きたら？

接種後に異変を感じた場合は、まずは接種を受けた医療機関やかかりつけ医に相談して下さい。また地域の医療機関をバックアップするため、47都道府県に80を超える協力医療機関があり、必要に応じて受診が出来ます。

協力医療機関への受診については紹介状が必要なため、まずは接種を受けた医療機関や、かかりつけ医にご相談ください。



ワクチン相談窓口

予防接種による健康被害が生じた場合、その健康被害がワクチン接種によるものであると厚生労働省が認定した場合には、救済制度があります。救済制度の申請や相談は、居住地域の窓口へご相談ください。厚生労働省でも下記窓口でHPVワクチンについての相談を受け付けています。

厚生労働省

感染症・予防接種に関する相談窓口

電話番号：0120-331-453

※HPVワクチンを含む、予防接種全般についての相談窓口です。

みんなで学ぶ HPV ワクチンアカデミー



HPVワクチンの安全性と子宮頸がん予防について、科学的なデータと専門家の意見に基づいた情報を動画で学べます。

総括責任者：片山佳代子
医療監修：上田豊

<https://www.youtube.com/watch?v=KHx6BzKvHWQ>

国立がん研究センターファクトシート

日本の子宮頸がんおよび HPV 関連がんの対策とその管理体制について、科学的根拠と諸外国の事例を国立がん研究センターがまとめています。



<https://www.ncc.go.jp/html/icc/hpvcancer/index.html>